

所属する政党に対して抱くイデオロギーラベルが及ぼす政策への影響

2021年2月13日

1. はじめに

新型コロナウイルスによる影響で、「9月入学」や「オリンピック延期」など、急遽起きた様々な大規模な政策の変更について議論されることが多かった。例えば、毎日新聞2020年5月24日の社説でも「秋から新学年を始める「9月入学」導入の是非を政府が検討している。新型コロナウイルスの影響で休校が長期化し、学習の遅れが深刻化したことがきっかけだ。」として記事になっており、議論が展開されてきたことがうかがえる¹。しかし、海外留学のしやすさなどの利点から以前からもたびたび議論されていた「9月入学」は、今回も制度導入の踏切には至らなかった。このような制度の大規模な変更を行わない、いわば保守的な対応は、政党や議員の年齢や性別などと関係があるのではないか。また、もし、これらと関係がある場合、「9月入学」以外の他の政策に対する考え方にも影響が及んでいるのではないか。多くの課題に対する解決に向けた考え方からも深く分析する。

2. 先行研究

先述した仮説の通り、保守的な対応が政党や議員の年齢、性別などの所属や属性と関係している場合、大規模な政策の変更が行われない事実は、それらの所属や属性の影響を大いに受けていることが指摘される。

そもそも保守的とは何であるのか。新藤東洋男(1962,p209)によると、「保守主義」とは、「保守的であるということと同じではなく、同じ変化を嫌うことであっても、変化によって何か価値のあるものが失われるのを嫌うことであり、社会の変化に際して価値のあるものが否定されようとする場合にそれを保守しようとする主義で、積極的に新しく価値を創出しようとする進歩主義に対する概念である。」と説明されている。

しかしながら、有権者側における保守的の捉え方は変化している。有権者の持つイデオロギーラベルに対する理解については、遠藤晶久・ウィリー・ジョウ(2016)の調査研究がある。伝統的な保守イデオロギー理解において世代間断絶が指摘されている中で、「保守的—革新的」「保守的—リベラル」ラベルでは世代間の認識のねじれがある一方で、「右—左」というラベルでは一貫した枠組みで政党間対立が認識されていることが示された。イデオロギーによって結果は変わっているが、年齢によって政党への考え方に差はあると有権者には考えられていることが窺える。同じことは議員側においても言える可能性がある。

垂澤ら(2002)は、ゲームを通して、資源分配が不利な集団であるマイノリティが、所属するという行為に安心感や満足感を得るということを解明している。つまり、社会の中で、所属意識というものは、何らかの安心感を与えるもので、それは政党に所属する時にも発生するような意識であり、所属することでその集団の一員として何らかの同じ思考を持ち出す流れが生まれていると言えるのではないか。

3. 理論と仮説

先行研究から、保守的-革新的というイデオロギーラベルでは、個人で認識の違いはあるものの、年齢や政党によって、政党に対するラベルの振り分けには違いがあると言える。つまり、政党に対するラベルに関して、それぞれの政党に所属する議員も同じような認識の違いを持っているのではないか、そしてそのように政党に対して異なるラベル認識を抱いている場合、各政党の政策に対する考え方にも差が生まれるのではないか、と考える。よって、第一に、年齢、性別、政党を説明変数(x)とした時の自身の政党に対するイデオロギーラベル、保守派/リベラル派の回答を目的変数(y)として設定し、この3つの説明変数によって政策に対する考え方の差や政党に対するラベルの認識の違いがあるという仮説を立てる。なぜなら、遠藤晶久・ウィリー・ジョウ(2016)研究によると、有権者では年齢において政党に対するイデオロギーラベルの違いが見られたため、同じように、議員においてもその認識の違いは同様にあり、それらの認識をもとに所属する政党を選んでいる部分があるからである。第二に、その結果をもとに、年齢や政党を説明変数(x)とした時の9月入学の賛否(2020データ)、フランス民事連帯計画への賛否(2019)、ペットショップへの賛否(2020)、「追悼の辞」をやめることへの賛否(2018)、選択的夫婦別姓への賛否

¹ 毎日新聞 2020年5月24日 東京朝刊 社説「コロナと9月入学案 国民的議論の場が必要だ」

(2018)、パートナーシップへの賛否(2018)について分析する。第一の分析において、政党に対するイデオロギーの違いがある場合は、それらが政策にも影響を与えると予測する。

4. データ・変数・分析手法について

以下のデータは、2018年、2019年、2020年三度にわたって、都議会議員に対し、都議会議員の職についての質問や社会問題についての質問を記した調査書を郵送・回収を行って得たものである。QRコードを付随させ google フォームを利用したウェブ調査も同時に行った。

結果の集計後、年齢、性別、政党を説明変数とし、9月入学の賛否(2020データ)、フランス民事連帯計画への賛否(2019)、ペットショップへの賛否(2020)、「追悼の辞」をやめることへの賛否(2020)、選択的夫婦別姓への賛否(2018)、パートナーシップへの賛否(2018)の回答結果を目的変数として重回帰分析を行った。調査に使用した質問と、それぞれの回答処理の方法は以下に記す。

目的変数について

Y1 異なる政治的立場を表すとき、「保守」と「リベラル」、あるいは「右派」と「左派」などと表現することがあります。もっとも右派・保守的な立場を10、もっとも左派・リベラルな立場を0とすると、あなたの政治的立場は、いくつになりますか。0から10の数字でお答えください。(文章下に尺度表の図) [2018、2019、2020データ]
数値をそのまま使用

Y2 新型コロナウイルス感染症が拡大する以前から、あなたは日本に「9月入学」を導入することに賛成でしたか、反対でしたか。[2020データ]

1.賛成 2.わからない 3.反対

賛成を1、反対を0、わからない欠損値に加工して使用

Y3 ペットの店頭での販売について、どちらの意見に近いでしょうか。1つお選びください。[2020データ]

A.ペット関連市場の成長・維持のために必要である

B.ペットの店頭での販売は禁止すべきである

Bを1、Aを0に加工して使用

Y4 フランスでは民事連帯契約(共同生活を営むカップル、内縁者を対象に、同性カップル、異性カップルを問わず、法的婚姻関係になるカップルと同等の権利を認め交渉する精度)、日本における事実婚が制度として認められています。あなたは個人として、フランスのように事実婚を制度として導入することに賛成でしょうか、反対でしょうか。[2019データ]

1.賛成 2.どちらかと言えば賛成 3.どちらともいえない 4.どちらかといえば反対 5.反対

1.2.を1、4.5.を0、どちらともいえないを欠損値に加工して使用

Y5 あなたは例年9月1日に実施される「関東大震災朝鮮人犠牲者追悼式典」において、東京都が毎年送っていた「追悼の辞」を2年前から送ることをやめたことに賛成でしょうか、それとも反対でしょうか。[2018年データ]

賛成 どちらかと言えば賛成 どちらともいえない どちらかと言えば反対 反対

賛成,どちらかと言えば賛成を1、どちらかと言えば反対,反対を0、どちらともいえないを欠損値に加工して使用

Y6 あなたは、夫婦が望む場合に結婚後も夫婦がそれぞれ結婚前の氏を称することを認める選択的夫婦別姓制度の導入に賛成でしょうか。それとも反対でしょうか。[2018年データ]

賛成 どちらかと言えば賛成 どちらともいえない どちらかと言えば反対 反対

賛成,どちらかと言えば賛成を1、どちらかと言えば反対,反対を0、どちらともいえないを欠損値に加工して使用

Y7 渋谷区、世田谷区では「パートナーシップ証明書」や「パートナーシップ誓約書受領証」が発行されていますが、あなたは東京都が同性同士による離婚や同性カップルに対して異性カップルと同じ権利を認めることに賛成ですか。[2018年データ]
 賛成 どちらかと言えば賛成 どちらとも言えない どちらかと言えば反対 反対
 賛成,どちらかと言えば賛成を1、どちらかと言えば反対,反対を0、どちらかとも言えないを欠損値に加工して使用

以下の表は、調査結果についての記述統計である。

表1：回答結果の記述統計

	平均値	最大値	最小値	中央値	標準偏差
政治的立場(2018)	6.48	10.00	1.00	7.00	2.52
政治的立場(2019)	4.61	9.00	0.00	5.00	2.47
政治的立場(2020)	4.74	9.00	0.00	5.00	2.39
9月入学(2020)	0.67	1.00	0.00	1.00	0.85
ペットの店頭販売(2020)	0.61	1.00	0.00	1.00	0.47
事実婚制度(2019)	0.81	1.00	0.00	1.00	0.39
追悼の辞(2018)	0.28	1.00	0.00	0.00	0.45
夫婦別姓(2018)	0.94	1.00	0.00	1.00	0.24
パートナーシップ(2018)	0.94	1.00	0.00	1.00	0.23

質問によって得られた回答の加工後の値を平均値、最大値、最小値、中央値、標準偏差をまとめて表1にした。平均値と中央値から、政治的立場は2019年2020年では、中立寄りの回答をした議員が多いことが伺える。また、2018年は右派・保守的な立場をとる議員が多いことが伺え、同時に、2018年データの回答についても中立寄りの回答というよりかは、賛成・反対がより濃く別れる結果が得られていると言える。

説明変数について

X1 年齢
そのまま使用

X2 性別
男性：1 女性：0

X3 会派(ダミー変数)
分析したい会派を1、その他を0に加工して使用

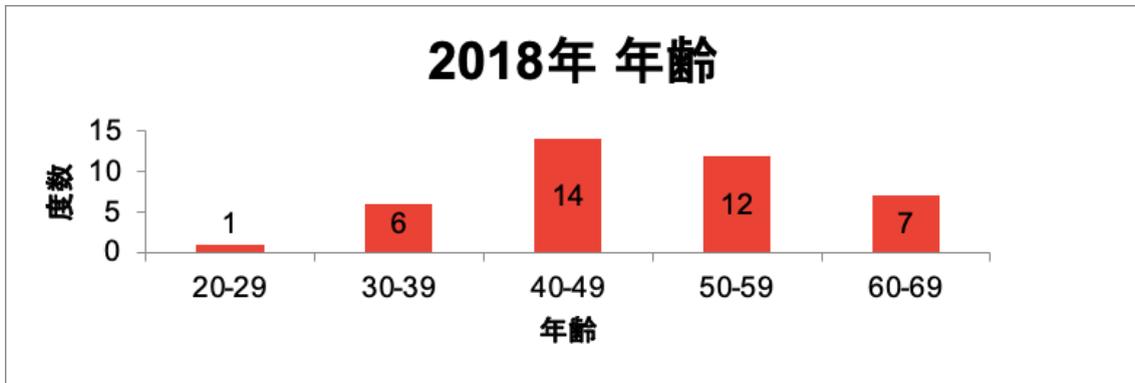


図1：2018年 年齢についてのヒストグラム

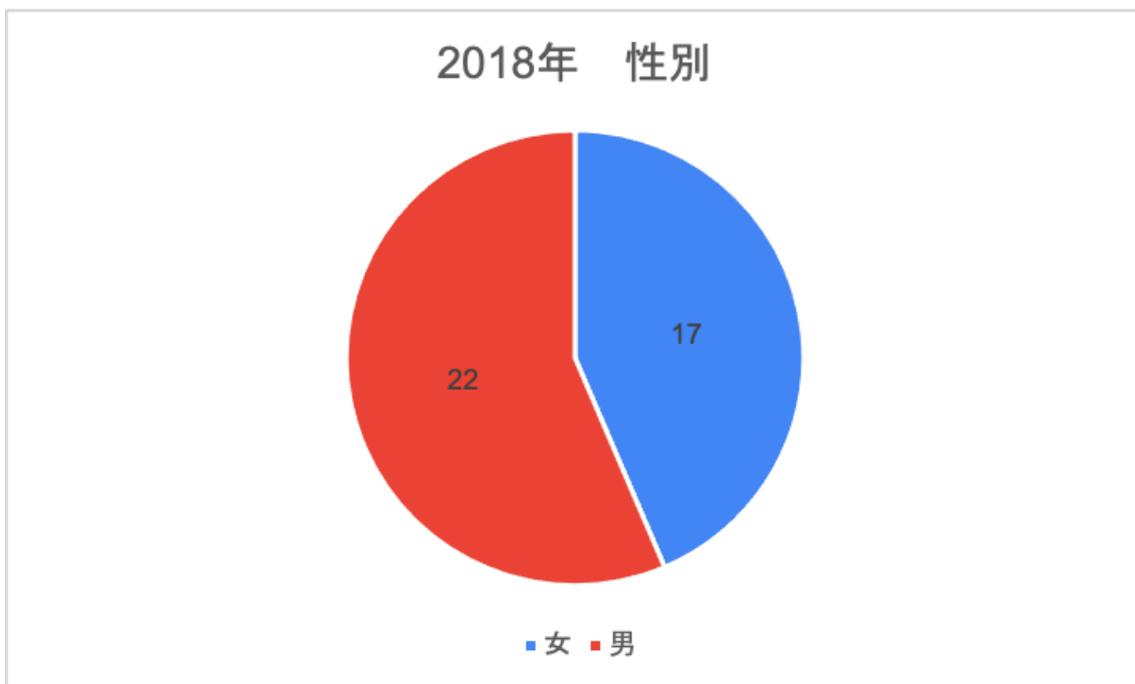


図2：2018年 性別についての円グラフ

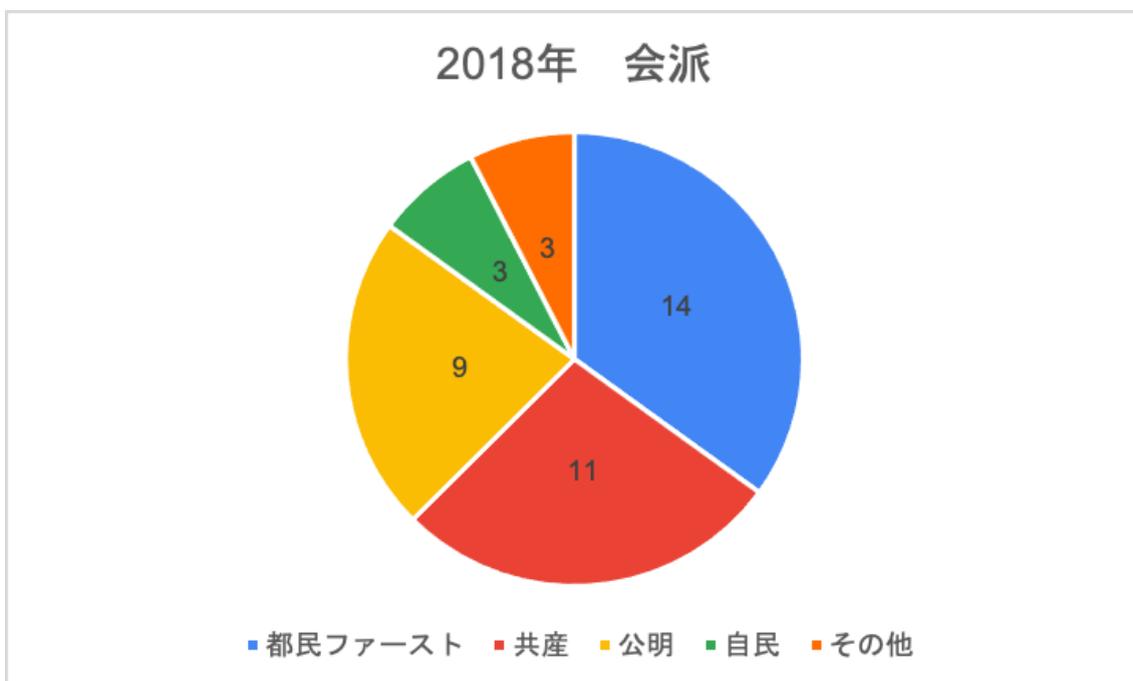


図3：2018年 会派についての円グラフ



図4：2019年 年齢についてのヒストグラム

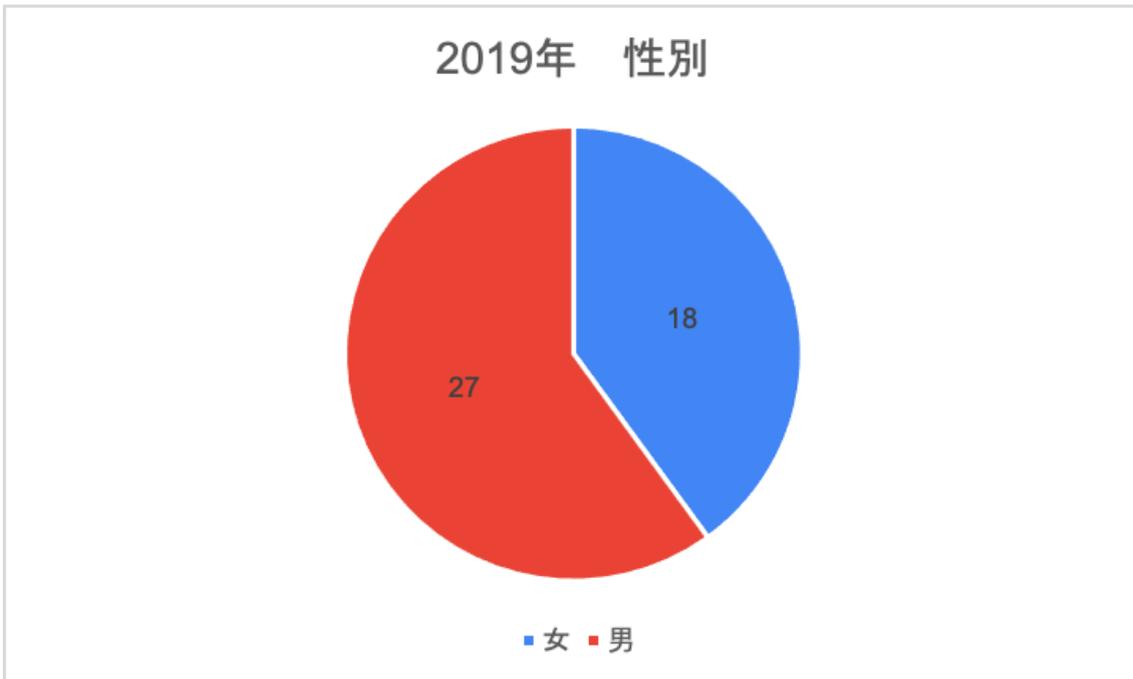


図5 : 2019年 性別についての円グラフ

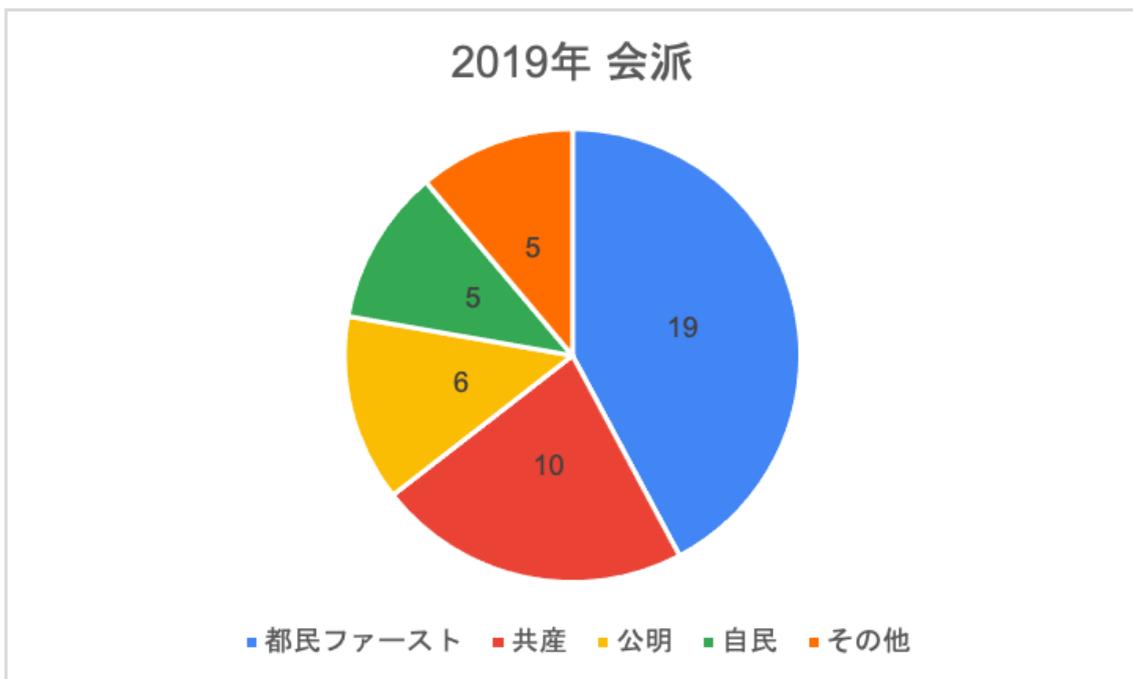


図6 : 2019年 会派についての円グラフ

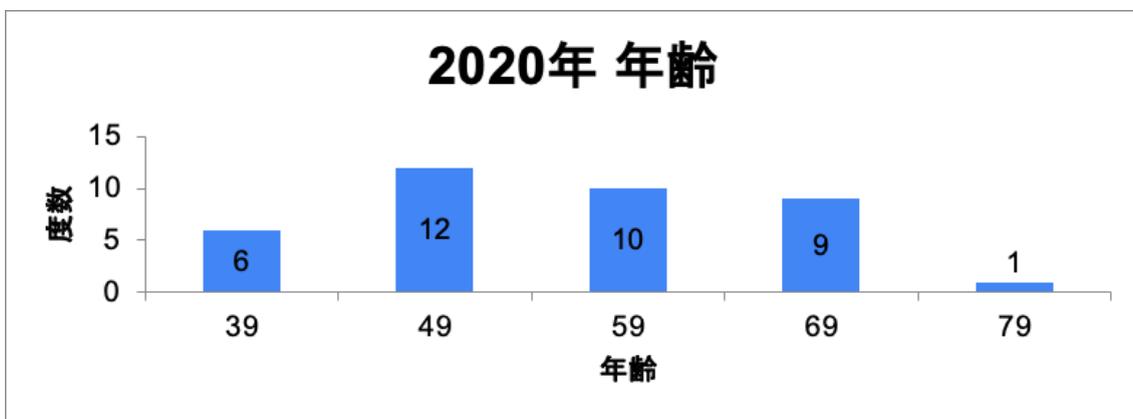


図7：2020年 年齢についてのヒストグラム

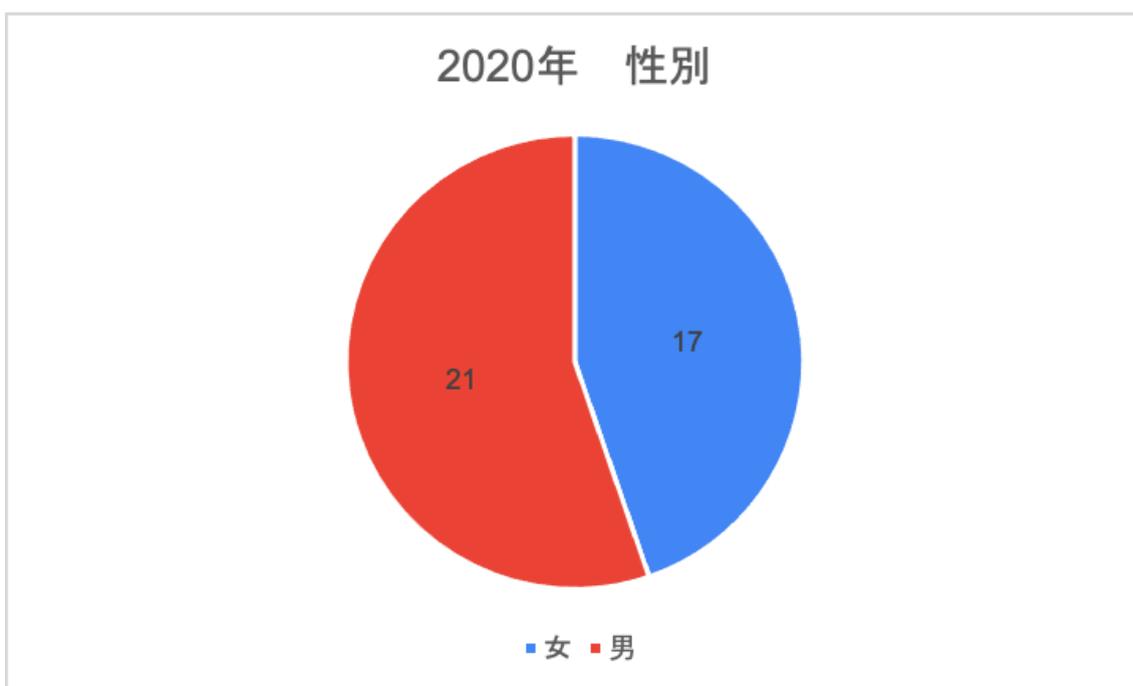


図8：2020年 性別についての円グラフ

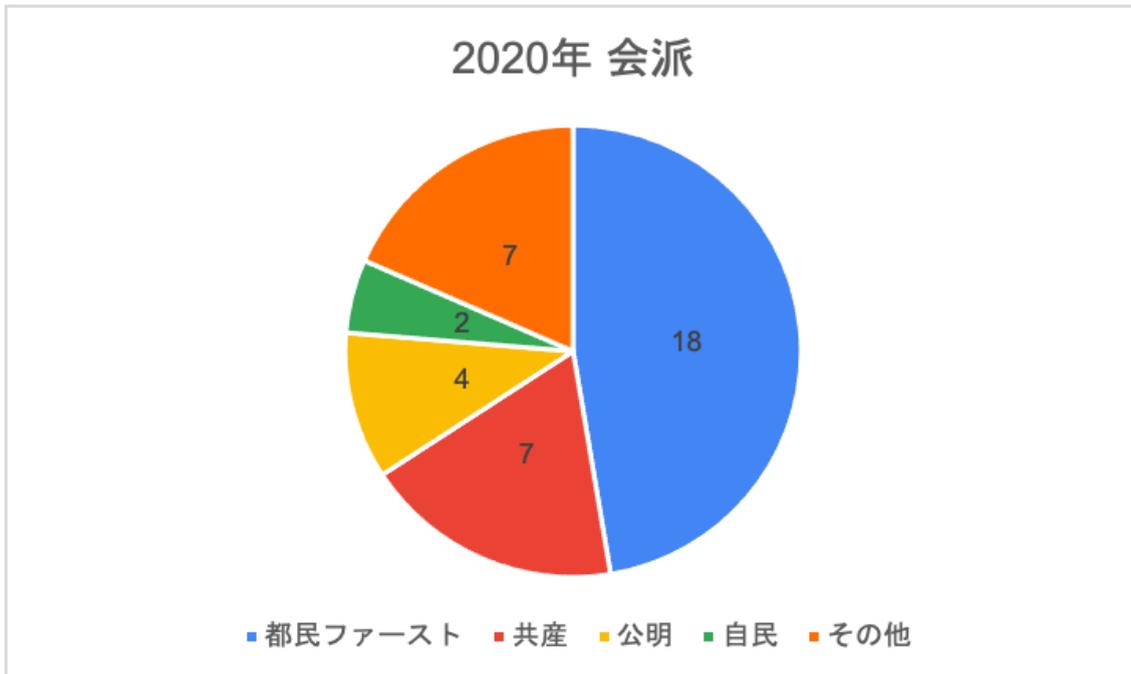


図9：2020年 会派についての円グラフ

以上これらの目的変数と説明変数を使用して分析していきたい。

5. 分析

以下、全ての会派別の分析において、無所属と立憲民主はいずれも少数派で分析に適した回答数が得られなかったため会派別では欠損値とし、分析に含めていない。他にも特定の問題に関して無回答で、回答が得られなかったものについても全て欠損値扱いとしている。

はじめに、年齢を説明変数、政治的な立場への回答を目的変数として回帰分析を行い、年齢と政治的な立場への思考に有意な関係が成り立つかを分析する。

[2018年]

表2-1：2018年 年齢(x)と政治的な立場への回答(y)の回帰分析の結果

回帰統計			
重決定 R2	0.015		
観測数	40.000		
	係数	標準誤差	p値
切片	7.992	2.038	0.000
年齢	-0.031	0.041	0.452

[2019年]

表2-2：2019年 年齢(x)と政治的な立場への回答(y)の回帰分析の結果

回帰統計			
重決定 R2	0.040		
観測数	40.000		
	係数	標準誤差	p値
切片	6.935	1.958	0.001
年齢	-0.045	0.036	0.218

[2020年]

表2-3：2020年 年齢(x)と政治的な立場への回答(y)の回帰分析の結果

回帰統計			
重決定 R2	0.000		
観測数	31.000		
	係数	標準誤差	p値
切片	4.441	2.253	0.058
年齢	0.003	0.042	0.950

2018年,2019年,2020年いずれのP値も有意水準5%よりも高く、有意であるとは言えない。よって、年齢と政治的な立場の間に有意な関係はない。

次に、性別を説明変数、政治的な立場への回答を目的変数として回帰分析を行い、性別と政治的な立場への思考に有意な関係が成り立つかを分析する。

[2018年]

表3-1：2018年 性別(x)と政治的な立場への回答(y)の回帰分析の結果

回帰統計			
重決定 R2	0.004		
観測数	39.000		
	係数	標準誤差	p値
切片	6.325	0.626	0.000
性別	0.310	0.834	0.712

[2019年]

表3-2：2019年 性別(x)と政治的な立場への回答(y)の回帰分析の結果

回帰統計			
重決定 R2	0.182		
観測数	40.000		
	係数	標準誤差	p値
切片	3.133	0.610	0.000
性別	2.247	0.772	0.006

[2020年]

表3-3：2020年 性別(x)と政治的な立場への回答(y)の回帰分析の結果

回帰統計			
重決定 R2	0.055		
観測数	31.000		
	係数	標準誤差	p値
切片	3.923	0.663	0.000
性別	1.132	0.870	0.204

2019年のみP値が0.006と、有意水準5%よりも小さく、有意であると言える。よって、2019年においては、性別と政治的な立場の間に有意な関係があり、性別が政治判断になにかしらの影響を与えている可能性があることが考察できる。

最後に、それぞれの会派を説明変数、政治的な立場への回答を目的変数として回帰分析を行い、所属する会派と政治的な立場への思考に有意な関係が成り立つかを分析する。

[都民ファーストの会]

表4-1：都民ファーストの会(x)と政治的な立場への回答(y)の回帰分析の結果

2018			
回帰統計			
重決定 R2	0.399		
観測数	40.000		
	係数	標準誤差	p値
切片	5.308	0.393	0.000
都民ファーストの会	3.335	0.665	0.000
2019			
回帰統計			
重決定 R2	0.399		
観測数	40.000		
	係数	標準誤差	p値
切片	3.571	0.523	0.000
都民ファーストの会	2.034	0.759	0.011
2020			
回帰統計			
重決定 R2	0.482		
観測数	31.000		
	係数	標準誤差	p値
切片	3.231	0.598	0.000
都民ファーストの会	2.325	0.785	0.006

2018,2019,2020年いずれのP値も有意水準5%よりも小さく、有意であると言える。係数が正の値であることから、右派、保守的な立場をとる傾向にあることがわかる。よって、都民ファーストの会に所属する議員らの思考は似ている可能性が高く、都民ファーストの会に所属していることが政治判断になにかしらの影響を与えている可能性があることが考察できる。

[共産]

表4-2：共産党(x)と政治的な立場への回答(y)の回帰分析の結果

2018			
回帰統計			
重決定 R2	0.613		
観測数	40.000		
	係数	標準誤差	p値
切片	7.690	0.299	0.000
共産	-4.417	0.570	0.000
2019			
回帰統計			
重決定 R2	0.607		
観測数	40.000		
	係数	標準誤差	p値
切片	5.683	0.299	0.000
共産	-4.583	0.599	0.000
2020			
回帰統計			
重決定 R2	0.770		
観測数	31.000		
	係数	標準誤差	p値
切片	5.708	0.241	0.000
共産	-4.994	0.507	0.000

2018,2019,2020年いずれのP値も有意水準5%よりも小さく、有意であると言える。いずれも係数が負の値であることから、共産党は左派、リベラルな立場をとる傾向にあること

が分かる。よって、都民ファーストの会と同様、共産党に所属する議員らの思考は似ている可能性が高く、共産党に所属していることが政治判断になにかしらの影響を与えている可能性があることが考察できる。

[公明]

表4-3：公明党(x)と政治的な立場への回答(y)の回帰分析の結果

2018			
回帰統計			
重決定 R2	0.034		
観測数	40.000		
	係数	標準誤差	p値
切片	6.226	0.456	0.000
公明	1.108	0.962	0.257
2019			
回帰統計			
重決定 R2	0.011		
観測数	40.000		
	係数	標準誤差	p値
切片	4.426	0.446	0.000
公明	0.740	1.151	0.524
2020			
回帰統計			
重決定 R2	0.036		
観測数	31.000		
	係数	標準誤差	p値
切片	4.407	0.465	0.000
公明	1.343	1.294	0.308

[自民]

表4-4：自民党(x)と政治的な立場への回答(y)の回帰分析の結果

2018			
回帰統計			
重決定 R2	0.004		
観測数	40.000		
	係数	標準誤差	p値
切片	6.432	0.424	0.000
自民	0.568	1.549	0.716
2019			
回帰統計			
重決定 R2	0.094		
観測数	40.000		
	係数	標準誤差	p値
切片	4.234	0.421	0.000
自民	2.357	1.190	1.981
2020			
回帰統計			
重決定 R2	0.071		
観測数	31.000		
	係数	標準誤差	p値
切片	4.414	0.440	0.000
自民	2.586	1.733	0.147

公明党と自民党どちらも全ての年において、P値が有意水準5%より大きく、これらの政党に所属する議員の政治的立場にはばらつきがあり、所属している政党が政治的判断に影響を与える可能性は少ないと考察できる。

以上から、共産と都民ファーストの会、性別(2019年のみ)は政治的な立場に影響を与えている可能性があることが分かる。

次に、多数の課題に対する考え方をこの3つの説明変数が影響を与えているかどうかを分析する。

1. 目的変数:9月入学についての賛否 説明変数:所属する政党

表5：都民ファーストの会(x1),共産党(x2)と9月入学についての賛否(y)の重回帰分析の結果

回帰統計			
重決定 R2	0.500		
観測数	30.000		
	係数	標準誤差	p値
切片	0.600	0.111	0.000
都民ファーストの会	0.333	0.143	0.028
共産	-0.600	0.192	0.004

都民ファーストの会も共産党もP値が有意水準5%よりも小さいため、それぞれの政党と9月入学についての賛否には有意な関係があると言える。都民ファーストの会は係数が正の値であることから、9月入学について賛成の傾向があり、負の値であることから、9月入学について反対の傾向があることが分かる。

2. 目的変数:ペットの店頭販売禁止への賛否 説明変数:所属する政党

表6：都民ファーストの会(x1),共産党(x2)とペットの店頭販売禁止への賛否(y)の重回帰分析の結果

回帰統計			
重決定 R2	0.084		
観測数	36.000		
	係数	標準誤差	p値
切片	0.692	0.135	0.000
都民ファーストの会	-0.222	0.180	0.226
共産	0.141	0.241	0.562

都民ファーストの会も共産党もP値が有意水準5%よりも大きいため、それぞれの政党とペットの店頭販売禁止の賛否には有意な関係があるとは言えない。

3. 目的変数:事実婚制度への賛否 説明変数:所属する政党

表7-1：都民ファーストの会(x1),共産党(x2)と事実婚制度への賛否(y)の重回帰分析の結果

回帰統計			
重決定 R2	0.084		
観測数	42.000		
	係数	標準誤差	p値
切片	0.800	0.101	0.000
都民ファーストの会	-0.094	0.138	0.500
共産	0.200	0.159	0.216

都民ファーストの会も共産党もP値が有意水準5%よりも大きいため、それぞれの政党と事実婚制度への賛否には有意な関係があるとは言えない。都民ファーストの会の回答の平均値は0.706、共産の回答の平均値は1.00で、共産党は回答した全議員が事実婚制度に賛成

していることが分かる。

この事実婚制度への回答は2019年のデータであり、2019年データにおける政治的立場と性別との間には、有意な関係があったという分析結果から、説明変数を性別とした回帰分析も行う。

4. 目的変数:事実婚制度への賛否 説明変数:性別

表7-2：性別(x)と事実婚制度への賛否(y)の回帰分析の結果

回帰統計			
重決定 R2	0.160		
観測数	42.000		
	係数	標準誤差	p値
切片	1.000	0.089	0.000
性別	-0.320	0.116	0.009

説明変数である性別のP値が有意水準5%よりも小さいため、性別と事実婚制度への賛否には有意な関係があると言える。係数が負の値をとることから、男性は事実婚制度に反対の立場をとる傾向にあると言える。

5. 目的変数:追悼の辞をやめることへの賛否 説明変数:所属する政党

表8：都民ファーストの会(x1),共産党(x2)と追悼の辞をやめることへの賛否(y)の重回帰分析の結果

回帰統計			
重決定 R2	0.660		
観測数	25.000		
	係数	標準誤差	p値
切片	0.143	0.106	0.189
都民ファーストの会	0.714	0.149	0.000
共産	-0.143	0.135	0.301

都民ファーストの会のP値が有意水準5%よりも小さいため、都民ファーストの会に所属していることと追悼の辞をやめることへの賛否には有意な関係があると言える。一方、共産党はP値が0.301と有意水準5%よりも大きいため、有意な関係はないと言える。よって、追悼の辞をやめることへの賛成意見が多数であることは都民ファーストの会内で顕著にあらわれていると言える。

6. 目的変数:選択的夫婦別姓への賛否 説明変数:所属する政党

表9：都民ファーストの会(x1),共産党(x2)と選択的夫婦別姓への賛否(y)の重回帰分析の結果

回帰統計			
重決定 R2	0.030		
観測数	34.000		
	係数	標準誤差	p値
切片	0.917	0.070	0.000
都民ファーストの会	-0.008	0.101	0.941
共産	0.083	0.101	0.417

都民ファーストの会も共産党もP値が有意水準5%よりも大きいため、それぞれの政党と選択的夫婦別姓への賛否には有意な関係があるとは言えない。この選択的夫婦別姓の回答結果によると、反対と回答したのは1名しかおらず、他は全員賛成派であったため、これは所属する政党関係なく多くの議員が賛成派であると言える。

7. 目的変数:パートナーシップへの賛否 説明変数:所属する政党

表10：都民ファーストの会(x1),共産党(x2)とパートナーシップへの賛否(y)の重回帰分析の結果

回帰統計			
重決定 R2	0.082		
観測数	36.000		
	係数	標準誤差	p値
切片	0.867	0.059	0.000
都民ファーストの会	0.133	0.094	0.164
共産	0.133	0.091	0.152

都民ファーストの会も共産党もP値が有意水準5%よりも大きいため、それぞれの政党とパートナーシップへの賛否には有意な関係があるとは言えない。これも、選択的夫婦別姓と同様、賛成派が多く、賛否があまり分かれなかった。

6. 結論と合意

都議会議員が思うそれぞれの政治的立場と所属する政党には関係があり、他の会派所属議員と比較して、都民ファーストの会と共産党はそれぞれの政治的立場が明確に分かれていることが分析結果からうかがえる。2019年においては、政治的立場と性別に関係があると言える。これらの結果を元に特定の政治的判断を分析していくと、都民ファーストの会は、保守的な政治的立場をとる傾向にある。また、現在、都民ファーストの会は、東京都議会の第一会派を形成しているため、現在の政治の流れや傾向に沿った政治的考えや立場をとっていると言える。

2019年における性別と政治的判断においては、事実婚制度への賛否の回帰分析結果を見る限り、男性が保守的な立場をとり、女性がよりリベラルな立場をとっていると言える。

このように、有権者と同様に、都議会議員もそれぞれの政治的立場に沿って政党を選んでいる部分や政党によって政治的立場に影響が出ている部分があると推測できる。また、年齢と政治的立場の間には予想よりも政治的立場にそれほどな影響を与えないと言える。つまり、都議会議員の政治的立場や政治的思考は、それぞれが所属する政党に影響を受けていることが明らかとなった。

7. 参考文献

遠藤晶久・ウィリー・ジョウ, 2016年, 「イデオロギー・ラベルの再検討」 『よろん』 117巻, p10-15

新藤東洋男, 1962年, 「紫溟会の政治思想」 『法政史学』 (15), p209-221

垂澤由美子、広瀬幸雄、大沼進, 2002年, 「社会の中のマイノリティはいかにして帰属意識を得るのか?-仮想世界ゲームを用いて-」 『シミュレーション&ゲーミング』, 11巻2号p9-15